

## 2018年度 放送番組審議会議事録

【開催日時】 2018年11月13日（火） 午前10時00分～11時00分

【場 所】 株式会社ケーブルネット下関 2F会議室

### 【出席者】

放送番組審議会：7名 ※敬称略・順不同

#### 会 長

高山 剛 （下関商工会議所 事務局長）

#### 委 員

沼 孝宏 （サンデン交通株式会社 取締役総務部長）

砂原 雅夫 （下関市立大学 理事（事務局長））

山本 昌信 （林兼産業株式会社 常任監査役）

中野 浩幸 （株式会社山口銀行 取締役 本店営業部長）

広瀬 誠 （株式会社みなと山口合同新聞社 執行役員 山口新聞 営業局長）

植田 恵理子 （下関市総合政策部 部長）

#### 放送番組審議会事務局：7名

鳥居 吉治 （株式会社ケーブルネット下関 代表取締役社長）

藤野 悦郎 （株式会社ケーブルネット下関 常務取締役）

立石 靖治 （株式会社ケーブルネット下関 地域プロデューサー）

仲川 圭 （西日本メディアセンター センター長）

井手 誠也 （西日本メディアセンター アシスタントマネージャー）

清水 俊太郎 （西日本メディアセンター 制作グループ）

山下 真由美 （西日本メディアセンター 制作グループ）

## 【議事内容】

### 1. 開会

#### 1) 会長挨拶 高山会長

#### 2) 新委員挨拶

植田 恵理子（下関市総合政策部 部長） ※前任の村上委員はご退任

#### 3) ケーブルネット下関代表挨拶（鳥居代表取締役社長）

現在視聴可能世帯は約6万7千世帯。その皆さんに視聴していただいている番組を今日見て頂き、忌憚ない意見をいただきたい。

また、4K放送が2018年12月からスタートする。YouTubeでも視聴いただける。

そしてケーブルネット下関は、今年開局20年。今後もよろしく願います。

※立石地域P、清水社員の紹介

### 2. 番組編成方針について

#### 1) 西日本メディアセンター長（仲川センター長）

※J:COMグループ全体の概要を2018年の会社概要・編成方針の資料を基に説明

全国でコミュニティチャンネルの視聴可能世帯数は、1,378万世帯である。

J:COMの全体の企業理念（ビジョン）は、「生活になくてはならないもの」。そのようなチャンネル編成を目指している。

J:COMコミュニティチャンネルのコンセプトは、「地域に喜ばれ地域社会に貢献しようと一緒に汗をかくこと」。

そして、2つのコミュニティチャンネルで地域の魅力を発信している。

※J:COMチャンネル「ど・ローカル」とJ:COMテレビ「地域発のコンテンツを全エリアへ」の違いについて説明。

J:COM九州・山口のエリアは、福岡・下関・北九州・熊本・大分である。

J:COM下関について、視聴可能エリアをマップを使って説明。視聴可能世帯数は、6万7千世帯である。

地域プロデューサーの業務内容とは、地域の窓口業務を担い、それぞれの地域ステークホルダーとの関係状況を踏まえて局の地域戦力を推進するもの。

地域情報アプリ「どローカル」で動画の無料視聴が可能であることなど利用について案内。全国のデイリーニュースやライブカメラの映像が見られることなど。

また、災害時の情報発信にも活用していく。

#### 2) 質疑応答

委員：下関市全市をカバーしているのか（視聴可能エリア）。

事務局：旧市内はだいたい網羅している。旧豊浦郡は、豊浦町川棚、菊川町の支所あたりがエリア。

豊北町や豊田町はまだカバーできていない。

委員：下関市への地元情報発信はもちろんだが、エリア外への発信はしているのか。

事務局：生活圏外から誘客に関心ある企業なども周辺エリアに多いので、今後取り組みたい。

委員：もっと地域ステークホルダーを巻き込んでどうか。観光資源を還元する策など具現化し、インフラを活用するなど。地域貢献をしてほしい。

委員：福岡からの発信番組（Toggy の清く正しくテキトーチャンネルなど）はあるが、下関から他地域への発信番組を作って欲しい。

事務局：定住移住イベント・番組を、下関市と共に 1 月に実施する。公開生放送も企画している。福岡市民、北九州市民へ向けての発信ができるように考えている。

### 3. 2018 年度放送番組内容について

#### 1) 2018 年度 自主制作番組内容説明

※事務局が放送番組を資料一覧で紹介。

「LIVE マルチ情報館」：下関のイベント情報を文字情報で掲載。下関・福岡・北九州・熊本の各局のライブカメラを活かして放送。

<特番について>

- ・5月「しものせき海峡まつり」の生中継は、今年初の取り組み。
- ・6月にNHK のど自慢の山口予選をNHK と共に収録し、コミュニティチャンネルでも放送。
- ・豊北町の「浜出祭」は、7年に一度の開催ということで、ドキュメンタリー番組として6月に放送。
- ・8月の「関門海峡花火大会」は今年も生中継を実施。通常の40倍の視聴があった。
- ・「馬関まつり」、「J:COM 杯ミニバス」、「長府企業フェスタ」、「下関海響マラソン」、「下関市小学校音楽祭」、「年頭挨拶」、「成人式」、「私の意見発表会」など、毎年多くの方が視聴いただけるイベントは今年も長尺で収録・放送した。  
※「ほっちゃタイム」「ほっちゃスポーツ」として、文化・スポーツに分け月に1本ずつ54分放送。
- ・「デイリーニュース」は、月・水・金曜日 15:00 から生放送。コミュニティチャンネルでは一番力を入れている番組である。番組内で、下関警察署や下関市消防局から提供された「安心安全情報（交通事故件数、火災件数など）」も放送している。
- ・「わくわく1年生」は、市内小学1年生を取材。長く続けて成人式に活用できるくらい継続していきたい。
- ・「下関人図鑑」は、市内のあらゆる方面で活躍している様々な方たちに出演して頂いている。
- ・山口県ケーブルテレビ協議会の共同制作番組に取り組んでいる。  
今年、「山口ゆめ花博」を取り上げ、9月14日の開催に先立ち9月10日から放送。  
また10月から11月にかけて「明治150年」をテーマに加盟している8局がそれぞれの特色を生かした番組を制作・放送した。
- ・「第8回中国地区番組アワード」で「リフレッシュパーク豊浦の四季物語～旅するチョウ『アサギマダラ』の不思議～」を出品。最優秀賞を受賞した。  
継続して年に数本、身近な情報をドキュメンタリー番組として制作している。

※会場で番組視聴・・・「デイリーニュース」、「しものせき海峡まつり」（合計約20分）

## 2) 質疑応答

委員：デイリーニュースは以前より良くなった。テロップも見やすくなった。消防・警察は見直ししてもよいと思う。毎回、放送する必要はあるのか？再放送の時の消防・警察の件数は必要なのか？再放送だと情報が古くなるため、違和感があると思う。

入り中継は、その時はいいが再放送を見ると、今やっているようで勘違いするような気がする。中継の表示をどうするかを考えて方がよいのではないか。

事務局：おっしゃる通りなので、具体的な対応策を検討したい。

◆事務局から 2019 年の番組内容について、もっとこんな番組をという意見があったらお伺いしたいと投げかけ。

また放送している番組全般についての感想や意見を募る。

委員：番組表より実際にチャンネルを切り替えながら（ザッピング）見ている人が多いと思う。

その時に視聴者の目に留まるような内容や、ひとつでも多くネタを放送するといいいのではないか。また、地域密着に興味関心ある人へのネタを選択するといいいと思う。

特番も一人でも多く見て頂けるように周知しての放送（番宣）を検討して欲しい。

委員：興味がわくような店舗などを紹介する番組はないか。地域ブランドを紹介するとか。

地域内での商品の消費へつながるような番組も作ってほしい。

事務局：全国的にも店舗の紹介などは控えていて、日々のニュース系、人物紹介を優先的に制作しているが、来年はその要望にも応えられるように検討したい。

◆毎日生放送への発展も考えているがそれに関してのご意見をいただきたい。

委員：朝の通勤時間に合わせた番組を放送するのはどうか。今のデイリーニュースの放送時間では多くの人は見ないのではないか。

委員：震災など災害が多い。それを伝える番組はあるようでない。あれば助かる。

事務局：台風や豪雨時は L 字の情報は 24 時間対応はしている。マルチ情報館でも定点カメラでのライブ情報を放送。ここで避難所情報なども伝えていきたい。

また事務所から距離があり情報が放送に間に合わないのが課題である。その際に地域住民からの情報がほしい。地域情報アプリ「どローカル」で投稿できるため、これを活用し住民からの情報も活用したい。

委員：民放では県内の交通情報しか見られないが、J:COM は関門地区での交通アクセスや運行状況が伝えられるのではないか。あれば見たい。

民放や NHK など伝えてくれないことをクローズアップして欲しい。

事務局：J:COM では公共交通機関の遅延なども紹介しているが、関門情報にもっと対応したい。

委員：ケーブルネット下関として、契約者へのマーケティングは行っているか。

視聴者目線での放送内容につながることももう少し必要なのではないか。視聴者のニーズにあったものを制作して欲しい。

以上